

# DAY 2



2022年10月10日(月曜日)

午前10時00分開始

## 第1部 ライチョウの生息現地での取り組み

座長紹介と挨拶

座長 有山 義昭(環境省信越自然環境事務所)

○司会者(本間香菜子) 皆様、おはようございます。

今日は、第20回ライチョウ会議 専門家会議「～中央アルプスのライチョウ復活を目指して～」にお越しくださいませ誠にありがとうございます。

私は本日の司会進行を務めさせていただきます本間香菜子と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。(拍手)

さて、この専門家会議は、ライチョウの研究者によるライチョウの生息状況調査結果や動物園での飼育経過について専門家が報告し、情報共有、意見交換を行ってまいります。

第1部は「ライチョウの生息現地での取り組み」をテーマにお話を頂戴してまいります。

座長は環境省信越自然環境事務所の有山義昭様です。それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

〔座長・環境省信越自然環境事務所野生生物課長 有山義昭 登壇〕(拍手)

○有山 義昭 皆様、こんにちは。

御紹介いただきました環境省信越自然環境事務所野生生物課長をしております有山です。

昨日は小林のほうがいろいろ発表をしましたが、小林と同じ課におります。

皆様におかれましては、昨日から参加の方、今日から参加の方もおられると思いますけれども、今日は昨日話した内容を専門家の方々いろいろな議論いただきながら意見交換できればなというふうに思っています。

私自身は令和2年4月に信越自然環境事務所に来まして、今は安曇野市に拠点を構えて生活しております。

環境省野生生物課の仕事は大きく3つありまして、ライチョウのような希少種の保全、今はイヌワシ、高山蝶のほうも取り組みを始めていますけれども、ライチョウのような希少種保全、あとは増え過ぎた鹿とかイノシシの鳥獣対策というのが鳥獣、あとはヒアリ関係の外来種対策です。その中でもライチョウについてはうちの課のほうでも重要事項として取り組んでいるところで。

私自身は、ちょうど20年前に環境省に入りまして、これまでライチョウ自体は保護増殖事業ということで紹介させていただいてますけれども、北は稚内のほうでレブンアツモリソウの保護増殖事業、ちょうど自然遺産の登録の前なのですが南は小笠原の父島でアホウドリとかアカガシラカラスバトなんかの保護増殖事業に取り組んでまいりました。

私自身、ライチョウの出会いとしては、小学校のときに親に連れられて、後ほど説明がありますけれども立山の室堂に両親と行ったことがきっかけになります。

昨日の学校登山ではないですけれども、山が好きで、役所に入ってからいろいろな山登りを続けております。

中央アルプスについては、役所に入って2年3年ぐらいだったと思いますので、ちょうど今から17年前ぐらい、10月に木曾駒一中央アルプス駒ヶ岳から空木岳のほうまで2泊3日で縦走したというのが思い出深いことになります。

今日は、第1部について環境省では生息域内と域外保全ということで主に生息域内保全に取り組んでまいりましたけれども、生息域内保全の生息現地での取り組みということで、実際に最前線でライチョウの保全とか研究に関わっていただいている方に講演いただいて、皆様と議論を深められればというふうに思っております。

具体的には、ライチョウが生息している北アルプスでいうと立山ですとか、あとは南アルプス南部の静岡県伊ザルガ岳とか光岳周辺のライチョウの現状、あと中央アルプスにおける野生復帰の取り組み、これは中村先生のほうからお話いただきます。

さらに、ライチョウ保全に関わる人、実際には予算があっても人がいないとなかなか事業というのを動かしていくことが難しいので、そういう人に焦点を当てた紹介もいただきます。

さらには、猿の追い払い、そういった保全活動と、長野県のクラウドファンディング、さらには山岳信仰と文化的な背景のことも含めて最後に話していただくような予定です。

ちょっと2時間という長丁場ですけれども、なかなか2時間に収まらない内容が盛りだくさんになっていますので、時間管理とか、そういうふうに努めてまいりたいと思います。

大体、各発表の方15分をめどに発表いただきますけれども、その中で少し早く終われば会場の方から質問をお受けしたいと思います。

それで、ちょっと15分ぎりぎりになりますと、最後のほうで10分間ぐらい時間を、12時から12時10分まで設けますので、その中で質疑応答の時間も設けたいと思いますので、発表のほうよろしくお願い致します。